2025 年 7 月 27 日

森と海の自然科

大東の水郷巡りご報告

1 日時　　2025 年　7 月 24 日（木）
2　集合場所　　JR住道駅北改札口
3　集合時間　　10 時 00 分　　２７名（研修生　２名）

ガイドさんの要望により２班に分かれての活動となったので、行程の時間は２班のものです。
駅で大東市の説明を受け、恩智川から寝屋川沿いに歩く。
10 時 30 分：本念寺
10 時 40 分：北野神社
11 時 10 分：御領のせせらぎ水路の乗船場に到着。今回の最大のイベントである田船に５人づつ乗船。
　　時間にして 10 分あまり。１班は逆方向（菅原神社から）からの乗船。菅原神社で全員集合
11 時 50 分：地蔵菩薩立像（頼尊地蔵）
12 時 00 分：辻本家、内部へ。エアコンのある快適な座敷にて 25 分間説明をうける。
12 時 40 分：自治会館にて昼食。暑さが厳しい（35 度）ため全員で話し合って今回は午前のみの活動に変更
13 時 25 分：帰路に
13 時 50 分：住道駅に到着

水郷巡り（なぜ水郷なのか）
大東市一帯は、縄文時代前期ごろは生駒山地のすぐ麓まで海水域が入込み河内湾となっていましたが、時代とともに水がひき河内湖へと変化し、さらに平安時代になると、“ないりそのふち”と呼ばれる池となっていました。池が小さくなるにつれて周辺一帯は湿地帯となり、度々の水害に見舞われることになります。文献上からもこの地での生活が大変だったことがうかがわれます。戦国時代になると、東に深野池、その西南に新開池と二つの池に範囲が確定しました。江戸時代中期河内平野の治水のためになされた大和川の付け替え(1704 年)で、深野池、新開池の干拓と大規模な新田の造成がおこなわれました。その後集落と農地が拡大するにつれて水路も数多く作られ、道路のような役割を担いました。御領地区では昔は民家の裏には必ず水路があってそこに船着き場があり、田んぼの横まで行けました。船は＜三枚板＞といわれ、長さ約 8.2m,幅約 1.1m で人や農作物を運んでいました。交通手段の主役が車に代わり、多くの水路が埋め立てられましたが、いまでも昔の水路の一部が多少幅は狭くなっていますが残っています。

（写真：河合さん　　文責：倭　）